

ビハーラ研修会報告

五位組組長 珉照寺 住職 山岸智史

2019年
(令和元年)
9月15日

五位組だより

念仏のこころに生きる生活を

浄土真宗本願寺派
高岡教区 五位組

題字・織田隆夫



ビハーラ研修会 福岡町土屋 珉照寺

九月六日(金)、福岡町土屋の珉照寺にて五位組主催の「ビハーラ研修会」が開催されました。

仏教とは生老病死の苦悩を課題としています。そして、ビハーラ活動はその生老病死の苦悩に共感して、共に生きていく活動をいいます。そのビハーラ活動の上で障壁となるのが、私たちの心の底に存在する、「邪魔な人や面倒な人」を遠ざけたり排除しようとする心ではないでしょうか。残念ながら、今の私たちの社会には人間を有用性(役に立つ・立たないか)のはかりにかけてしまう現実があります。今回の研修では、生老病死の苦悩に共感し共に生きていく(ビハーラ活動)上で私たちのあり方を見直そうという趣旨のもと、高岡市伏木の林史樹さんをお招きし、「優生思想」と「障害者」差別というテーマでお話をいただきました。「優生思想」とは、人間の存在を優秀な者と劣等な者に分け、優秀な者の存在を増やしていくことをめざす一方で、劣等な者の存在を否定し、社会から排除していくこととする思想です。まさに私たちの心の底に存在する思想であり、社会の中にもそれが現れ出ることがあります。多岐にわたるお話の中で、特に重要で絶対に

押さえておかななくてはならないと感じたのは、障害の原因は個人にあるのか、社会(人々の偏見や、建物や制度等)にあるのか、ということでした。私は、私たちが偏見(優生思想)をなくし、社会(建物や制度等)を変えていけば、障害のある人も自由に人間らしく生きることができると感じました。障害の原因は社会にあるといえるでしょう。そのことは、障害者差別の問題は(障害者の問題ではなくて)私たちの問題であることを意味します。更に言えば、障害の原因は、私たちの心の底に存在する優生思想にあるといえるでしょう。優生思想は身近なところに現れ出ます。自らの優生思想に気づき、それを問い直し、一方で、差別を生み出す社会構造を変えていくことが大切です。*

※「障害者」という表記について、最近「害」という字が直接的に当事者を傷つけるということからひらがな表記が広まりましたが、「障害」は社会の側にあるのであれば、ひらがな表記はその社会の問題を見えなくしてしまうという点で、今回の報告では漢字表記にいたしました。

第21回五位組夏休み子ども大会

中保 善教寺 藤田宝祐



BMX 元世界チャンピオンと子ども達

令和に入って最初の夏休み子ども大会を、八月十九日(月)に中保の善教寺にて開催しました。時間は午後二時からではありませんでしたが、前日までの暑いカンカン照りと違い、その日は夕方まで曇り空でしたので過ごしやすい一日だったように思います。

子ども大会の最初にお寺での作法と礼儀の説明で始まり、組長・門徒総代会会長から挨拶をして頂き、それから「らいはいのうた」を全員でお勤めました。ゲーム(じゃんけん・オセロ)に

移り、三十人の子供達が大騒ぎしながらゲームを楽しみました。ゲーム終了後に、門徒総代会の方々よりスイカを出して頂き、境内にて役員含め参加者全員で美味しいスイカを頂きました。食べ終えた後、BMX元世界チャンピオンの素晴らしい演技を見て、いったん本堂に入り、けん玉を楽しんだ後に讃歌指導をして頂き、全員で合唱し閉会となりました。閉会后、アンコールで紙芝居も行い、楽しく時間が過ぎたように思います。

子ども大会は、お寺に気軽に来て、遊んでもらう事、お念仏に触れあう事を第一の目的として長年継続して開かれております。お寺を身近に感じてもらう良い機会であり、主に小学生を対象としています。家族の方もお寺に来て頂く良い機会だと思っています。

合掌

自坊紹介

聖谷山

浄永寺

上向田



承元の法難(一一〇七年)といわれる専修念仏停止により、親鸞聖人は越後国府に配流となり、旅の途路小矢部川の氾濫によりやむなく向田村の村民善四郎宅に逗留された。この時、聖人の化導により六字名号を拝受したという。

向田という地名は、『源平盛衰記』に出てくる向田荒次郎の館があつたところに由来します。地方武士団として木曾義仲の軍に加わり、俱利伽羅峠の合戦に参戦し

ております。

寺の創建もこの戦いに由来する伝承として伝えられています。この合戦で亡くなった老武将、齊藤実盛(平維盛に従った)の弟、一方の一子四郎兵衛が出家し、加賀の篠原の里で亡くなった実盛の塚に詣で、越中の地に入り、たまたま向田村の善四郎の家を訪ね聖人の名号を拝し真宗信者となりました。後、浄念と名のり一寺を建立したという。

本坊の創建は、正慶元年(一二三二年)三月と云われ、初代浄念は元弘元年(一二三一年)七月入寂と法名が残されています。

寺地も創建より向田であり、他宗からの転派もありません。木仏の許可を得るまでご本尊として朝夕に村人たちと礼拝していた六字名号は、判読困難となりましたが寺宝として今に伝えられております。

報 恩 講 案 内

各寺院の日程順に記載してあります。

どうぞお誘い合わせの上、お参りください。詳細については、各寺院にお問い合わせ下さい。

石堤 法善寺

九月二十八日 朝九時三十分 昼一時三十分
九月二十九日 朝九時三十分 昼一時三十分
法話 高岡市戸出六十歩 林 要昭 師
※二十九日は永代祠堂経法要

上向田 浄永寺

十月三日 昼一時三十分
十月四日 朝九時三十分 昼一時三十分
法話 射水市市井 公文名 眞 師

赤丸 性宗寺

十月十一日 昼一時三十分 夜七時
十月十二日 朝九時三十分 昼一時三十分
法話 射水市市井 公文名 眞 師

四日市 浄明寺

十月十四日 朝十一時 昼一時三十分
十月十五日 朝九時三十分 昼一時三十分
法話 高岡市内島 岡西 法英 師
※ 十四日朝は永代祠堂経法要

中保 善教寺

十月十六日 昼二時
法話 高岡市泉町 現影 顕正 師

辻 西福寺

十月十六日 昼一時三十分
十月十七日 朝九時三十分 昼一時三十分
法話 高岡市伏木 山名 一徳 師

立野 永念寺

十月二十日 昼一時三十分
十月二十一日 朝九時三十分 昼一時三十分
法話 高岡市土屋 山岸 智史 師

三日市 光源寺

十月二十二日 昼一時三十分 夜七時
十月二十三日 朝九時三十分 昼一時三十分
法話 高岡市土屋 山岸 智史 師

本保 本正寺

十月二十六日 朝九時三十分 昼一時三十分
法話 高岡市内島 岡西 法英 師

佐加野 光明寺

十月二十七日 昼一時三十分 夜七時
十月二十八日 朝九時三十分
法話 高岡市内島 岡西 法英 師

内島 教願寺

十月三十日 昼一時三十分 夜七時
十月三十一日 朝九時三十分 昼一時三十分
法話 高岡市佐加野 磯原 孝雄 師

石堤 長光寺

十一月一日 朝九時三十分 昼一時三十分
夜七時
十一月二日 朝九時三十分 昼一時三十分
法話 氷見市布施 圓山 望 師

笹川 廣濟寺

十一月五日 朝九時三十分 昼一時三十分
夜七時
十一月六日 朝九時三十分 昼一時三十分
法話 高岡市伏木 山名 一徳 師

麻生谷 西光寺

十一月七日 朝九時三十分 昼一時三十分
夜七時
十一月八日 朝九時三十分 昼一時三十分
法話 氷見市脇 寺西 良夫 師

山岸 珉照寺

十一月十六日 昼一時三十分
十一月十七日 朝九時三十分 昼一時三十分
法話 氷見市泉 伯水 永雄 師

舞谷 永賢寺

十一月二十三日 朝九時三十分 昼一時三十分
法話 富山市新庄町 福山 祐介 師

五位組 行事予定

樽谷先生と行く

勝興寺の足跡を

バスで辿ろう！

令和元年十一月二十八日（木）

皆さん伏木の勝興寺さんにお参りされたことはありませんか？現在修復工事が進められている県内有数の大寺院です。しかしこの勝興寺さんも元から今の伏木にあったわけではありません。戦乱の中で各地を移転し、現在の場所に至りました。

今回この勝興寺さんの足跡をバスで辿るツアーを企画しました。どのように伏木まで移ってきたのか。またそこにはどのような歴史背景があったのか。郷土歴史家の樽谷雅好先生と共に巡ります。

帰着後には、集合場所でもある「かこみ」さんにて懇親会も行います。時間の許す方は是非ご参加くださいね♪

日時

十一月二十八日（木）

十三時～十七時頃

集合場所

旬菜食事処 かこみ

（高岡市蜂ヶ島七四一五）

※駐車場あり

予定コース

沼田塚―二俣本泉寺―土山御坊―高木場御坊―安養寺御坊―石動通坊―懇親会
参加費 三〇〇〇円
（懇親会費は別）

申込先 笹川 広済寺

（☎三二一〇〇九六）

締切 十月末

※どなたでもご参加いただけます。



二俣 本泉寺

蓮門会

テーマ

蓮如上人のことば

令和元年

十月六日 十六時

会場 笹川 廣済寺

令和二年

二月二日 十五時

会場 内島 教願寺



土山御坊跡

編集後記

日常生活が洋式化して正座の機会が少なくなってきた今日この頃、あらためて仏さまにお参りする姿勢というものを考えるようになりました。

葬儀・年回法要においても、椅子に座ってお参りすることが多くなつてきています。椅子に座ることによつてお参りしやすくなったのは大変ありがたいことだと思いますのですが、ついつい足を組んでふんぞり返つてしまったり、どうかするとウトウト居眠りだつてすることもある……。

亡き人を思うと、せめて仏事のあいだぐらい、正座の心でお参りたいと思っています。